

第5回日本訪問歯科医学会

『 - 尊厳を保って生きる - 介護予防時代の訪問歯科診療』

平成 17 年 11 月 13 日 (日)

東京国際フォーラム ホール D

プログラム

1. 特別基調講演 アメリカにおける歯科医院のマーケティング
Eugene R . Casagrande , DDS, FICD, FACD
2. 特別教育講演 介護予防新時代における「口腔機能の向上支援」とは
～平成 18 年度改定介護保険における歯科医療従事者の役割～
日本大学歯学部摂食機能療法学講座 教授 植田 耕一郎
3. 特別教育講演 訪問歯科診療で注意すること
全身状態の観察
鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座 深山 治久
4. 協会公演 当医院での往診における歯科衛生士の役割と工夫について
広島県 桂歯科医院 歯科衛生士 美能 典子

『アメリカにおける歯科医院のマーケティング』

Eugene R . Casagrande ,DDS,FICD,FACD

すべての歯科医院経営の原動力は、新患を募ることであり、また現在の患者さんを保持することです。歯科医院経営のためのアドバイスとして、「歯科医師たちは、患者さんと接するとき、間違った優先順位に焦点を合わせている。“質より量” - それで診療の失敗につながる - 」ことをお伝えしたいと思います。

歯科医師は世界と患者さんのコンセプトを変えていかねばなりません。歯科医院をめぐる経営環境は加速的に変化しているのです。経営の優先順位と焦点を確実に保たねばならないのです。そして、くじけず、良い診療を続けていくことです。

最近の調査では、患者さんが歯科医師を選択するときの重要な基準は次の3点であることがわかりました。

- 1 . 信頼と安心で治療が受けられる
- 2 . プロフェッショナルな環境
- 3 . 最先端の製品、技術を導入していること

歯科経営の収益性のためには、患者数、診察科、診察受付数の増加、そして治療内容の多様性が必要です。

そこで、いかに患者さんを惹きつけ、患者さんの増加を図るかをテーマとして論じたと思います。

【略歴】

Eugene R . Casagrande ,DDS,FICD,FACD

- ・コンピューター制御局所麻酔器 “ワンド” の開発者の一人であり、世界各国においてのインストラクター
- ・南カリフォルニア大学非常勤講師
- ・元ロスアンゼルス歯科医師会会長
- ・第140代アメリカ歯科医師会会長、Dr ,EugeneSekiguchi の親友でもある

『介護予防新時代における「口腔機能の向上支援」とは』

～平成18年度改定介護保険における歯科医療従事者の役割～

日本大学歯学部摂食機能療法学講座 教授

植田 耕一郎

介護保険元年2000年に、要介護高齢者は280万人となり、そのうち介護保険を受給された方は220万人でした。2004年、介護保険は、それを受給された方が410万人となり目覚ましい普及を示しました。410万人の内訳をみると、要支援、要介護1という比較的軽度な要介護者が200万人を占めていることがわかりました。しかも、この200万人は、過去3～4年の間に介護度が重度化することはあっても、生活機能を維持したり、自立し介護保険が不要になったりする例はほとんどないこともわかりました。このペースで高齢化が進むと2015年には介護保険受給者は640万人になると予測されています。

そこで、平成18年度改定される介護保険に、介護度の重度化を予防するために「新予防給付」という新たな制度が施行されることになりました。本制度は、1.運動器の機能向上 2.栄養改善,そして3.口腔機能の向上 という3本の柱から成り立っています。

また要介護高齢者の死因の1位は、癌でも脳卒中でもなく肺炎です。要介護状態になる3大リスク因子は、1.骨折 2.閉じこもり 3.気道感染 です。口腔機能向上は、総じて摂食・嚥下機能の向上を意味します。これを果たすことにより、栄養改善、運動器の機能向上、気道感染予防、そして食べる楽しみを獲得し、高齢者が美味しく、楽しく、安全な食生活を営むことを期待するものです。こうした社会を背景に今回は、以下の点について検討してみたいと思います。

1. 介護保険の現状と来年度からの流れ
2. 介護予防に果たす「口腔機能の向上」,「口腔ケア」の役割
3. 「口腔機能の向上」における歯科医療従事者の責務

私は病院勤務ですが、在宅や施設、そして診療所での外来診療など、それぞれの現場で展開されている内容との相互間のギャップが埋められ、実践的な話し合いの場がもてれば幸いです。

【略歴】

植田 耕一郎

昭和 58 年 3 月 日本大学歯学部卒業
昭和 62 年 3 月 日本大学大学院歯学研究科修了
昭和 62 年 4 月 日本大学歯学部 助手
平成 2 年 6 月 東京都リハビリテーション病院 医員
平成 11 年 4 月 新潟大学歯学部加齢歯科学講座 助教授
平成 16 年 4 月 日本大学歯学部摂食機能療法学講座 教授

現在に至る

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会監事，評議員，編集委員

日本障害者歯科学会学術委員

新潟大学歯学部非常勤講師

愛知学院大学歯学部非常勤講師

東京医科歯科大学歯学部非常勤講師

神奈川歯科大学歯学部非常勤講師

【関連図書/ビデオ】

1. 植田耕一郎：脳卒中患者の口腔ケア，医歯薬出版，1999．
2. 植田耕一郎：
患者教育用 / 説明用ビデオ「要介護高齢者の摂食・嚥下障害と口腔ケア」
デンタルダイヤモンド社，2000．
3. 植田耕一郎，斉藤 力，井出吉信編：
口と歯の病気マップ，医歯薬出版，2003．

『訪問歯科診療で注意すること 全身状態の観察』

鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座

深山 治久

高齢社会，有病者の増加と言われて久しくなりました。このような方々は何らかの全身疾患をお持ちの方がとても多いことは，既にお気づきでしょう。

特に訪問歯科診療では、何らかの理由で診療室に来られない患者さんを対象にするので、重度の全身疾患を合併している場合があります。先生の診療中に突発的な事態が絶対に起こらないという保証はありません。その時に先生は適切で安全な対処ができますか？

今回の講演では、診療中に実際に発生した全身的な偶発症を紹介し、原因、症状ならびに対処法を分かりやすく説明いたします。また、このような目に遭わないための注意点や予防法、すなわち患者さんを観察する方法を具体的にお話しして、安心して診療が進められる手段を紹介いたします。

【略歴】

深山 治久

1973年3月	東京都立富士高等学校卒業
1975年4月	東京医科歯科大学歯学部歯学科入学
1981年3月	東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
1981年4月	東京医科歯科大学大学院歯学研究科入学（歯科麻酔学専攻）
1985年3月	東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了（歯科麻酔学専攻）

【職歴】

1985年4月	東京医科歯科大学歯学部附属病院医員（歯科麻酔科）
1986年4月	東京医科歯科大学歯学部附属病院助手（歯科麻酔科）
1989年3月	米国カリフォルニア大学ロスアンゼルス校（UCLA） リサーチフェロー1991年9月まで）
1998年4月	東京医科歯科大学歯学部附属病院学内講師（歯科麻酔科）
2000年4月	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 麻酔・生体管理学 助教授
2004年4月	鶴見大学 歯学部 歯科麻酔学講座 教授

【学会活動】

1985年9月	日本歯科麻酔学会 認定医
1994年5月	日本歯科麻酔学会 指導医
1999年4月	日本老年歯科医学会 評議員
1999年4月	日本老年歯科医学会 編集委員・用語委員
2003年9月	日本歯科麻酔学会 広報委員
2004年1月	日本歯科麻酔学会 評議員
2004年9月	日本老年歯科医学会 理事
2005年1月	日本歯科麻酔学会 歯科麻酔専門医
2005年6月	日本障害者歯科学会 認定医

【著書】

1. 口腔外科卒後研修マニュアル。(財)口腔保健協会, 1995
2. 最新歯科局所麻酔ハンドブック. ヒョーロン・パブリッシャーズ, 2001
3. 麻酔科診療プラクティス. 文光堂, 2001
4. 医療事故防止のための安全管理体制の確立に向けて. 日総研, 2001
5. 歯科麻酔学, 医歯薬出版, 2002
6. 安心・安全な高齢者診療. デンタルダイヤモンド社, 2003
7. 難治疾患患児の歯科的対応. 東京臨床出版, 2003
8. 歯科医師のためのモニタリング. 口腔保健協会, 2004
9. 予防補綴のすすめ. ヒョーロン・パブリッシャーズ, 2004
10. 新看護学. 医学書院, 2005
11. 一から学ぶ歯科医療安全管理, 医歯薬出版, 2005

『当医院での往診における歯科衛生士の役割と工夫について』

広島県 桂歯科医院 歯科衛生士
美能 典子

当医院で往診を始めて3年が経つ。当初は院長1人、歯科衛生士1人から始め、試行錯誤で失敗もあったが、現在、代診を含め11人で歯科往診に取り組んでいる。往診における歯科衛生士の役割として私たちが今、取り組んでいること、また口腔ケアの工夫についてご紹介したい。

【略歴】

美能 典子

- 1994年 広島大学歯学部附属歯科衛生士学校卒業
- 1994年 広島市佐伯区 桂歯科医院勤務
- 2001年 桂歯科医院往診開始 訪問歯科衛生士として従事